

「こうかん・くわこう」 だより Oshima・Toshima 大島・利島

発行：平成26年3月

利島でケーソン工事が完了しました

利島港の今年度に予定されていたケーソン工事が完了しました。

こちらのケーソンは平成23年9月の台風15号による高波により移動して、岸壁線が不揃いとなったため、平成24年度から復旧工事をしていました。

ケーソンとは箱型コンクリートを指し、このコンクリートの箱を海に沈めることで岸壁や防波堤といった港湾施設にしています。完成まで皆様にはご不便をお掛けしましたが、無事完了を迎えました。ご協力ありがとうございました。

台風15号



台風15号被災状況



施工完了



台風26号来襲

昨年10月16日台風26号の来襲により、港湾施設も多大な被害を受けました。各港には、山からの土砂や流木等が堆積しました。

救援物資等の輸送を円滑に行うため、元町港では、翌日から岸壁に安全に船が接岸できるよう潜水調査を実施し、物資等の輸送のための車両が通れるように陸域部の清掃を行いました。

潜水調査状況



潜水士

元町港岸壁



土砂撤去状況



大島空港が災害派遣輸送拠点に

昨年10月の台風26号は、大島に未曾有の大災害をもたらしました。

あらためて、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

大島空港は辛うじて被害を免れ、16日の発災当日からほぼ一月の間、昼夜にわたり、警察、消防、自衛隊などによる救助隊員や救援物資の輸送拠点として重要な役割を果たしました。

16日の午後には、警視庁、東京消防庁をはじめ、埼玉県、千葉県、神奈川県、静岡県の緊急消防援助隊、陸海空各自衛隊に加え、報道各社の取材機が多数飛来し、平常時の10倍以上に当たる95機が離着陸することとなりました。

港湾空港管理事務所は、東京航空局大島出張所をはじめとする空港関係機関と調整し、8:00から16:30までの空港運用時間を延長して24時間離着陸が可能となるよう態勢をとり、緊急の空港使用に備えました。

22日に自衛隊統合任務部隊が設置されると、人員、資機材の輸送が増強され、この後数日間は、夜を徹した運航が続きました。

緊急消防援助隊ヘリ(左)と陸上自衛隊CH47型ヘリ



航空自衛隊C1輸送機(左)と陸上自衛隊CH47型ヘリ

このほか空港は、医療支援が必要な方々の島外避難、国土交通省などの航空機による被災状況調査、内閣総理大臣をはじめ、政府関係機関の現地調査の中継地としても利用され、自衛隊が撤収した11月15日までに離着陸した災害関連航空機は、延べ700機に達しました。

短期間に多数の航空機が離着陸することとなりましたが、関係機関のご協力により、定期便の運航を確保したうえで、安全に空港を運用することができました。しかしながら、深夜、早朝の運航に際しては、空港や航空路周辺にお住まいの皆様方にご迷惑をおかけしたと思います。この場をお借りして、あらためてご協力への御礼を申し上げます。

航空自衛隊C130型輸送機による陸上自衛隊員の撤収



雨の中、撤収する自衛隊を見送る方々



発行：大島港湾空港管理事務所 TEL：04992-2-1400
大島支庁港湾課工事係 TEL：04992-2-4461